

第3回 苅田港長期構想検討委員会

議事概要

日時：令和7年3月11日（火） 14：00～16：00

場所：リーガロイヤル小倉 4階 ロイヤルホール

○日産自動車九州株式会社 下野様（芦澤委員代理）

- ・ 資料 2-2 P.23：南港地区の地先に新たな産業用地を確保いただけるのはありがたく、実
- ・ 同ページ：企業立地の促進に伴い、周辺道路渋滞やアクセスが課題である。長期構想にも盛り込まれている「渋滞緩和措置等」について、具体的に組み込んでいただけるとありがたい。

○UBE三菱セメント株式会社 九州工場 石川委員

- ・ 資料 2-2 P.21：地球温暖化対策の推進に向けた官民連携の脱炭素化対策について追記いただきありがたい。
- ・ 当社では脱炭素化に向けて、燃料における廃プラスチックの増量、アンモニア燃焼実証試験、CCUS などに取り組んでいる。
- ・ 地球温暖化対策をグループの最重要課題の一つとして位置づけ、業界のトップランナーとして脱炭素化に取り組んでいくので、引き続き協力をお願いしたい。

○九州電力株式会社 苅田発電所 安武委員

- ・ 苅田港の成長戦略として、環境面及び安全面について包括的に整理いただき、港湾利用者に対してインフラとしての港湾利用広がりを描いていただいている。
- ・ 苅田発電所は2026年に廃止となり、現時点では跡地活用については決まっていないが、苅田港に立地する一企業として今後も協力・連携させていただく。

○株式会社商船三井さんふらわあ 苅田支店 三好委員

- ・ 資料 2-1 4.2(4) No.2：船舶大型化への対応として、航路の推進維持等の予防的保全を記載していることは安心である。
- ・ 浚渫や施設のメンテナンスは非常に大事なため、是非適切に実施していただきたい。

○苅田商工会議所 本田様（三原委員代理）

- ・ ロードマップの10～15年の中期、また、それ以降の長期の部分について、港湾計画を改訂し、着実に進めていただきたい。

○九州地方港運協会 野畑委員

- ・ 資料 2-2 P.23：新松山13号岸壁は非常に速いスピードで整備されておりありがたい。
- ・ 一方で、荷揚げされるバイオマス燃料の木質ペレットは臭いと埃が発生する。今後の新

松山地区の企業進出にこれらが影響を及ぼす可能性があるので留意いただきたい。

○九州地方海運組合連合会 樋口様（宗田委員代理）

- ・ 長期構想は非常によくまとめられている。情報や社会情勢は日々変わるので、常に最新の情報でアップデートした計画にしていただけるとありがたい。

○（一社）日本船主協会九州地区船主会 山本委員

- ・ パブリックコメントでも安心安全について触れられているが、新燃料の船舶が導入されていく中で、海象・気象等に対して安心安全に入港させるには、ハードだけでなくソフト対策についても関係機関との連携が重要となってくると考えている。

○荏田町 山本様（遠田委員代理）

- ・ 分譲用地が不足しており、需要に対応するため、例えば港湾緑地の一部を工業用地に活用するなど企業誘致の促進及び地域の産業経済の振興を図りたい。
- ・ 新松山地区と松山地区の基幹道路は県道新北九州空港線のみであり、地震時に災害が発生した場合は、通行不可能となり取り残される可能性がある。また高規格ユニットロードターミナルが整備され、フェリー機能を移転した場合、新たな交通渋滞も予想される。これらの対応として、長期構想にも記載されているとおり、臨港道路を整備するなど、荏田港内の円滑な港湾利用物流の確保や町内の幹線道路の負担軽減ができれば良いと考える。
- ・ 荏田港のポテンシャルを最大限に引き出せるよう、町としても尽力していく。

○九州地方整備局港湾空港部 宮津委員

- ・ 今後の物流ニーズ、企業立地の需要に対応していくなど、力強い長期構想となっている。
- ・ さらなる土地需要のニーズについては、直轄事業による浚渫土砂を活用可能である。
- ・ 今後は港湾計画の改訂に移っていく。早めに港湾分科会に諮って改訂して頂いた後、長期構想の具体化のために連携して事業を進めていきたい。

○門司海上保安部 岩橋様（大河内委員代理）

- ・ 資料 2-2 P.18：自動車運搬船の大型化に伴い、今後は南航路の航行ルールの見直しが生じると考えている。関係者と協議しながら決めていく必要がある。
- ・ 資料 2-2 P.21：次世代燃料は港則法上危険物に該当する。危険物の荷役が多くなることを考えると、港の安全対策として、特定港化の検討が必要であるとする。
- ・ 安全安心な港として地域経済を支えるために、今後も協力し、船舶の航行の安全を守り万全の対応をしていきたい。

○福岡県環境部 鐘ヶ江委員

- ・ 生態系の保全、カーボンニュートラルの視点、循環型資源のリサイクル・リユース拠点

等を盛り込んでいただいております、福岡県の環境施策の方向性が反映された内容となっている。

- ・ 福岡県の環境施策に引き続き協力いただきたい。

○福岡県農林水産部 上妻様（中馬委員代理）

- ・ 苅田港の開港にあたってブルーカーボンの取り組みを挙げていることに感謝する。水産資源の増殖にあたって海藻を増やしていくことは基本である。
- ・ 埋立を伴う構想であり、漁業関係者と協議が必要となると思われるが、何かあれば福岡県農林水産部に相談いただきたい。

○福岡県商工部 見雪委員

- ・ グリーンモビリティ（EV）、グリーンデバイス（半導体）、グリーンエネルギー（アンモニア等）を県政としても目玉としており、長期構想にも盛り込まれておりありがたい。
- ・ また、産業団地の確保と企業の立地促進も位置付けられており、商工部としてありがたい。陸海空の結節点である苅田港のポテンシャルは高いので、ぜひ実現に向けて進めてほしい。

○九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センター 山城委員

- ・ 物流・産業という苅田港の強みを主軸に、環境、人流・賑わい、安全・安心まで網羅した良い構想となっている。
- ・ 中期の目標に対しては港湾計画の改定でしっかり対応し、長期については今後の動向も見据えながら、柔軟に取り組んでいただきたい。
- ・ 苅田港の発展が地域の発展となる。地域を含めた持続的な発展を期待している。

○西日本工業大学 工学部 松下委員

- ・ 資料 2-3 P.3：苅田港は全体的にシルトの底質であり、この環境で藻場を形成していくのは難しいが、自生も確認されているとのこと期待できる。苅田港のような植物にとって厳しい環境であってもグリーンインフラの可能性のあることは魅力的である。早期着手をいただき、同じような環境の港の対策事例になれば良い。
- ・ 資料 2-3 P.4：苅田港は津波よりも高潮が懸念される。これから護岸岸壁のかさ上げも検討されると思う。長期構想に記載のあるとおり、公共と専用の岸壁が入り組んでいるので、これらが別々の対策にならないよう、一体的なハード対策をお願いしたい。
- ・ 地域住民の防災意識の向上も重要であり、地元の大学として苅田町と協力して取り組んでいきたい。

○西日本工業大学 デザイン学部 長委員

- ・ 資料 2-2 P.28：苅田港の工業地帯の西側には市街地が広がっている。長期構想で緩衝帯として緑地等を設けて公害・騒音の防止を図り、住民が暮らしやすい環境を守ること

を記載したのは良いと思う。

- ・ 工業地帯の整備について住民側から関心や関係性を持つことはなかなか無い。企業側の努力によって住民との交流機会を持ち理解が深まるとより良いと考える。

○北九州市立大学 上田委員

- ・ 資料 2-2 P.26：今後も環境調査を行い、鳥の行動等を観察し、また、自生環境を把握しながら、P.27にあるような「恒久的に」ではなく、「順応的に」といった、柔軟に環境変化を観察し対応していただくような取り組みに留意していただければと思う。
- ・ 共資料 2-2 P.33：護岸を活用した積極的なブルーカーボンへの転用など、環境変動に対応するとともに環境にも配慮した視点を持って取り組むとより良くなると思う。

○北九州市立自然史・歴史博物館 中原委員

- ・ 生態系の保全として用地を確保することが明記していることは評価できる。曾根干潟と白石海岸の間に位置する苅田港に湿地ができることによって、環境の連続性が担保される。
- ・ 人工干潟はチャレンジングだが、今後どのように機能していくか楽しみである。
- ・ 作って終わるのではなく、湿地を継続・保全していくことにも尽力してほしい。土地造成の過程で湿地が無くなるタイミングが無いように調整できれば良い。
- ・ クロツラヘラサギ以外のいろんな生物についても環境の変化の記録と併せてモニタリングを行い、環境の変化とともに何が増えて何が減るなどが分かるようにできれば、環境保全にも配慮した港湾整備のモデルケースとなりうる。

○神戸大学大学院海事科学研究科 石黒委員（欠席コメント）

- ・ 長期構想には当方の意見を十分に反映していただけたし、独自性のある魅力的な内容になっている。関係者の皆さまのご尽力に心よりの敬意と謝意を表します。今後の港湾計画改訂と事業遂行を可能な限り迅速に進めていただくことを期待しています。

○国土交通省港湾局計画課 加賀谷オブザーバー

- ・ 港湾計画の改訂に向けて、現時点では具体的なスケジュール等は頂いていないが、時間が経過すると社会情勢が変わってしまい確認・更新する事項が増えるため、速やかに改訂の手続きに移っていただければと思う。

以上